

片瀬のぞみだより

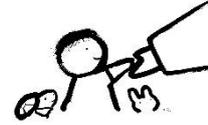
片瀬のぞみ幼稚園

2025年3月号

家庭通信 2024 No.26



「祈りの中で」



2024年度も最後ののぞみだよりとなりました。まずは、2024年度片瀬のぞみ幼稚園の歩みをここまで導いてくださった神さまに感謝するとともに、一緒に生活した子どもたちや幼稚園を見守り、お支えくださった保護者の皆さまとここまで紡いで来られたことに深く感謝を覚えます。

今年もよくお祈りしました、子どもたちも先生たちも。先生たちは毎朝、「朝のお祈り」から始まります。そこでは、今日一日の業を神さまに委ねるとともに毎日2人ずつ子どもたちを思ってお祈りします。そして、幼稚園の生活では、各クラスでお集まりしたとき、お散歩に出かける時、カメやおたまじゃくしが死んでしまった時、お野菜を収穫した時、おじいちゃんおばあちゃんのお手紙を出したとき、毎週水曜日の幼稚園礼拝、お弁当の時、お帰りの時、うみっこでおやつを食べる時、運動会や様々な行事の時・・・全部挙げたら〇〇の時だけで1ページでは書き記せないくらい子どもたちとたくさんお祈りしました。幼稚園での生活の中で子どもたちとお祈りしなかった日はありません。私は、23年間いつも、先生たちも何年も、そして、はと組さんは3年も、すずめ組は2年も、ひよこ組は1年も、たまごさんも毎日・・・祈ってるのです。改めて思い起こすと「すごい。」と思いませんか。「祈り」と聞くと形式や姿勢、仕方などが頭に浮かび「ちょっとむずかしそうだな。」と思うかもしれませんが、実際、私も初めての時はそう思いました。しかし、共に祈り続けていく内に「祈る」ことへの喜びと感謝が芽生え、子どもたちや先生たち、保護者の方々と神さまとお祈りすることが恥ずかしくなくなっていきました。子どもたちもそうです、共に「アーメン」から始まり、はと組になると世界中の困っている人たちへ祈りを届けます。その祈りは、決まったものではなく、自分の思いを神さまに届けます。ただ、「主イエスさまのお名前によって」。日常に祈りが溢れていることが安心だということを知っている気がします。祈りに包まれている温かさもよく知っている気がします。そして、よく知ってほしいと思います。もし、忘れたとしても「祈り」に戻った時、きっと思い出すでしょう。

2/19の幼稚園礼拝でサムエルという少年の話をしました。神さまの呼びかけに答えるお話しです。礼拝堂にはその呼びかけに答えるシーンが描写された絵があります。サムエルは呼びかけに対して上を向き、目を開けて、手を合わせていました。(是非、ご覧ください。)礼拝時、その絵をみんなと見ました。わたしが、説教を終え自分の座っている場所に戻ると隣りの子どもが「ぼくたちもおいのりのとき、したじゃなくてうえむいたらいいんじゃない。そっちのほうがかみさまのこえきこえるでしょ。」と小声で話してくれました。祈りの中で子どもたちはちゃんと育ってるんですね、こうして育つ子どもたちに豊かさを感じます。まっすぐに神さまをお迎えられる子どもたちの豊かさに自分が恥ずかしくなるほどです。そして、「神さまの愛と恵みをうけて、共に祈りの中で育ち合う」ことを覚えることができました。これからも、祈りで溢れる片瀬のぞみ幼稚園であり続けたいと思います。

♪お～いのりはね、ふむふむ

まいにちするんだぜ おっけ～

い～つもいえすさま きいててくれるから～♪

園長 横山流